

令和5年度第2回中部地区教科用図書採択協議会 会議録

○期 日 : 令和5年7月31日(月) 9:00~15:30

○会 場 : 倉吉市役所北庁舎3階 A会議室

○出席者

【採択協議会委員】

湯梨浜町

三朝町

北栄町

琴浦町

倉吉市

倉吉市小学校保護者代表

東伯郡小学校保護者代表

倉吉市小学校長会

東伯郡小学校長会

(事務局)

本日は、ご多用のところお集まりいただき感謝申し上げます。全員の委員の方にお集まりいただき「鳥取県中部地区教科用図書採択協議会規約第8条」により本協議会が成立していることを確認させていただく。

1 開会挨拶(協議会長)

- ・令和6年度から使用する小学校教科書について選定することとなる。調査員からの報告を受け、それに対して、質問等していただきながら、しっかり協議していただきたい。

2 今後の事務処理等について(事務局)

- ・本年度は、来年度以降使用する小学校教科用図書の採択年度となっている。
- ・協議会後の事務処理についての説明

3. ホームページへの掲載について提案(事務局)

《提案》

- ・現在、中部地区教科用図書採択協議会は、各種資料についてホームページへの掲載を行っていないが、今年度よりホームページへの掲載を進めてはどうか。内容としては、採択教科書及びその採択理由についての公開を考えている。掲載場所については、事務局のある倉吉市教育委員会ホームページでの公開を考えている。

《質疑・意見等》○委員 ●事務局

- 文部科学省は、採択教科用図書、採択理由、会議録、選定に必要な資料について公表の努力義務としていると思うが、会議録と選定に必要な資料を公開しないことについて理由はいかがか。
- 選定に必要な資料については、県内で選定に必要な資料を公開しているところがないということ、また会議録については、協議会委員について記載があり、懸念があるためである。
- 公開する方向で良いと思うが、いかがか。
- 各教科書会社から開示請求があると思うが、その場合は、どこまで開示となるか。
- 開示請求を受けてから開示する内容が確定することになると思うが、今までの請求内容を参考にすると、協議会委員、調査員の名前であったり、そういった内容も開示が求められることが考えられ

る。

○会議録を公開するときは、発言者の名前について伏せることができるのでは。

●参加者については、名前が掲載される予定。発言者については明記しない。(個人名は伏せる)

○調査員は全て伏せた方がよいと思う。ただ、この協議会は公のものであるため、公開してもよいものである。

○最初の案では、採択教科書とその理由ということであったが、もう少し範囲を広げて公開してはどうかというふうになってきている。どこまで広げるか。

○会議録の中には、委員が公開されている。その場合は、協議会委員のみでの公開はされていない。

○できるだけ、オープンにするのが基本だと思うが、公開ということで発言が萎縮してしまうと趣旨が変わってくるので、今年度は、採択教科書とその理由について公開してはどうか。いずれにしても、開示請求があれば、開示をされる。

○会議録について、開示請求があれば開示するのであれば、最初から開示してよいのでは。

○国が定めている努力義務としている範囲で良いのでは。

○同じ意見である。

○それでは、採択教科書、採択理由、会議録、選定に必要な資料について公開するという事。

○確認であるが、会議録の中に、協議会委員の名簿は入るのか。

●入る。第1回の会議録も入っている。

○名簿は黒塗りにしてはどうか。

○黒塗りで良い。

●全ての委員のお名前を黒塗りにするという事。

○そうである。

○公表の努力義務であるが、公表の範囲には、我々に裁量権があると考え。

○委員の名前を黒塗りという事。

○倉吉市に公開するという事、各町にリンクを貼らせていただければ有り難い。

承認

4. 選定協議(司会：協議会長)

・この後、各教科毎に、概ね5～10分程度、調査員より報告をいただく。国語から順番に始める。必要に応じて、見本本を見ていただき、説明の後、質疑応答の時間をとる。その後、調査委員に退席いただき、協議会委員メンバーで決定していく。それを、順次繰り返していく。

【国語】

《調査報告》

1 東京書籍

- ・单元ごとに育成する資質能力を「言葉の力」として明確化している。
- ・「言葉相談室」では語彙と文法に特化したページが設置されている。
- ・2年生以上で「季節の足音」というページが設置されている。
- ・「情報のとびら」が新設されている。
- ・国語のノートの作り方の例が示されており、学んだことを振り返ることができる。

- ・1年生の入門期の教材では、他者と対話することの楽しさを学べる構成になっている。
- ・「言葉の力」を意識してどのように学習を進めるか、明確に示されている。
- ・入門期にスモールステップで文字やリズムカルに言葉の基礎を学ぶように示されている。
- ・特別支援教育への配慮。文字と音が一対一対応をしない特殊音節で、手を打ちながら言葉と音で対応するようにしている。
- ・説明文や「話す・聞く」の教材が少し難しい。もう少し生活に密着したものがあってもよい。
- ・巻末の「言葉の広場」には、語彙力や表現力を高める言葉が多くの観点からまとめられている。
- ・「本は友達」では、本の紹介だけでなく、記録の残し方や読書の幅を広げるような内容が掲載されている。単元末には、発展読書教材として「こんな本もいっしょに」が示されている。
- ・説明動画を視聴することで、児童が自分で学習を進められるような二次元コードが掲載されている。
- ・「読むこと」と「書くこと」が連携して指導できる単元配列になっている。
- ・各領域の単元の学習の流れを「見通す」「取り組む」「振り返る」の課題解決的な3ステップで構成され、資質・能力が育成されるよう配列されている。
- ・単元のはじめに二次元コードが付され、前学年の学習の要点を振り返ることができる。
- ・国際理解教育の観点から、外国の児童の挿絵や名前が記載されている。
- ・文学的文章、説明的文章教材では、5行ごとの行数字の間に1行ごとの点を示すことで、特定の行を見付けやすい工夫がされている。
- ・点字の表が入っている。
- ・ローマ字の学習が3、4年にある。5、6年の巻末にもローマ字表が入っている。
- ・巻末付録の「デジタル資料を活用しよう」において、二次元コードを読み取ると、資料を見ることができるようになっている。
- ・国語ノートの作り方に加え、デジタルノートの作り方が紹介されている。
- ・SDGs、防災などの今日的課題を扱う教材、題材が採用されている。
- ・特設コラム「未来を生きる君へ」の各界の著名人メッセージがある。

2 教育出版

- ・「言葉の文化」「言葉の広場」「漢字の広場」、巻末の「言葉の木」といった言語的な知識を深められるような特設ページがある。
- ・「ここが大事」は教材の重点指導事項に対応している。
- ・巻末付録に「言葉の工具箱」が設けられており、各単元で学んだ言葉や学習用語等がわかるよう工夫されている。
- ・「たしかめよう」「くわしくよもう」「まとめよう」「つたえあおう」の課題解決的な4ステップで構成されており、見通しがもてる。
- ・「ひろがる言葉〇年生で学ぶこと」で1年間、何を学び、どんな力を付けるのか俯瞰し、見通すことができるように設定されている。
- ・説明的文章で練習教材があり、そこで身に付けた指導事項を本教材で生かす構成となっている。
- ・巻末に、学年で読みたい本が紹介されている。
- ・「見通しをもとう」ページには、上段に学習活動、下段に学習を支える思考ツールや図解が掲載されている。

- ・全学年上下巻の二分冊。
- ・上巻「つながるひろがる」下巻「これまでこれから」で学習内容を振り返る機会が設けられている。
- ・伝統的な言語文化に親しむ「読む」「書く」が1つの単元となっている。
- ・他教科の学習との関連が示され、活用につなげられるよう工夫されている。
- ・イラストで、外国人、車いすの子ども、ランドセルの色等、多様性への配慮が見られる。
- ・領域ごとにテーマカラーが使われている。
- ・障がいのある方へのよりよいかかわり方について学んだり、手話や点字を学んだりできる工夫がなされている。
- ・ローマ字の学習が、3年の上巻の1単元のみになっているが、ローマ字を使ってコンピュータを操作する内容が含まれている。
- ・学習に役立つ情報を二次元コードを使い、ウェブサイトにつなぎ、教科書と関連した情報を取り出すことができる。
- ・AI との暮らし、SDGs、ESD、世界遺産、防災等今日的な課題が取り上げられている。
- ・ふるさとキャリア教育に関連する教材が設定されている。
- ・1年では絵本の絵が掲載されており、スタートカリキュラムが意識されている。

3 光村図書

- ・新出漢字は四角で囲み、○印を付け、3年生以降では、新出箇所、小学校で学ぶ全ての読み方が掲載されている。
- ・「言葉の宝箱」のページを設け、学年に応じた使いたい語彙を示している。
- ・2年以上では、「きせつの言葉」として、四季に関連する語彙指導が季節ごとに設定されている。
- ・文学教材として取り上げられる作品が、名作や様々なジャンル（SF、ミステリー、翻訳小説など、多様な作品が取り上げられている。
- ・関連する同じ作者の作品を巻末に取り上げ、読みを広げるなど活用する場が設けられている。
- ・「話す・聞く」「書く」教材では、考えを交流、問題意識を共有、協働で解決するなど、主体的に人とかかわる教材が準備されている。
- ・「えらんで読み深めよう」など選択課題を設けたり、考えるための観点を複数示したりして、個別最適な学びが準備されている。
- ・説明動画を視聴することで、児童が自分で学習できるよう二次元コードが掲載されている。
- ・1～4年が上下分冊、5・6年が学年1冊の構成となっている。
- ・巻頭に「国語の学びを見わたそう」を設け、学びの流れを視覚化しており、本年度と前年度の学習内容のつながりが提示されている。
- ・「いかそう」においては、他教科や日常に生かすヒントが提示されている。
- ・「おはなしききたいな」のイラストで、肌や髪の色、車いすなど多様性への配慮が見られる。
- ・裏表紙の二次元コードには「学校で使う日本語」に関するコンテンツが掲載され、外国人児童への配慮がなされている。
- ・付録として、点字と手話について説明し、点字の表（凹凸あり）が入っている。
- ・6年生には、プログラミング的思考に関連する単元が設定されている。
- ・「情報」教材を年間2か所に設定され、各領域の学習と関連させている。

- ・「デジタル機器と私たち」では、よりよくメディアと付き合うための提案文章を書く単元が設けられている。
- ・2年～6年の巻末に「SDGsの達成に向けて」を設け、発達段階に応じた図書が紹介されている。
- ・ふるさとキャリア教育に関連する教材が設定されている。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

- 観点毎の説明は、良い部分についての説明ということでよいか。
- よい。各教科書ごとの特徴を捉え、説明している。
- 小学生が使うと、これが良いと思うものはあったか。
- 小学生の学習において、物語教材と説明的教材が大事だと考えている。その部分で、3社とも特徴がある。光村は、名作と多彩なジャンル。東京書籍は、どちらかという人間心を耕すような教材がある。教育出版は、障害等であるとか、配慮の必要な児童に対する部分について特化した部分がある。3社それぞれ特徴がある。どれも使ってみたいが、説明的文章は、分かりやすいと思う教科書会社はあった。
- 説明的文章の分かりやすさについて、どうか。
- わかりやすさというとか、その学年の少しレベルの高いもの、例えば、1年生の説明的文章の中に、花のことを扱ったものがあるが、普通、チューリップなどであると思うが、そこで桔梗が取り上げられているものがある。1年生にとって難しくないかと思うものを敢えて設定されているところ、そういったところで子どもたちの調べようという思いが感化される。「たんぼぼの智慧」は有名であるが、良いと思うし、説明的文章は光村が良いかなと思う。
- ローマ字の扱いについて、3年生の学習だけでは追いつかないと思うが、このあたりには高学年でも設定されているものがあると思うが、そのあたりについてどうか。
- タブレットも入ってきて、ローマ字入力を早く身につけなければいけない。それぞれが教科書ごとに特徴がある。パソコンを使うようになっているものもある。
- 教科書の大きさは全て同じか。
- 同じである。
- 紙のめくり具合はどうか。
- 同じ感じである。
- 絵や写真の入り具合はどうか。特に、低学年は文字が多くない方がよいのでは。
- 低学年の部分では、どの教科書も同じ感じではあるが、外国人の方や車椅子の方だとか多様に配慮する部分は、どの会社も変わってきている。
- QRコードはそれぞれの会社が適切に入れているか。
- QRコードは、至るところに入っている。それぞれ目的や役割が違うものが入っている。
- 光村の選択課題があり、個別最適な学びの部分について、他の会社はどうか。
- 「モチモチの木」の中で、選択できるようになっているところがある。個別最適な学びという点は、光村かなと思う。
- フォントのサイズの違いや1ページに収める行数等はどうか。
- 東京書籍は、ページ数が分かりやすいように1行ずつに点がついている。
- 日本語を文章にしたり話したりする技能を国語科で勉強する。芸術を鑑賞する際にも、国語で考えると思う。考えるためのツールとしても必要だと思う。そういう観点からすると、どこに特徴があ

るか。秀でている部分であるとか。

- 光村は全てが網羅されている。レベルの高い作品群である。東京書籍も、文学的教材は、そこを学ぶだけで人間の心を耕すような教材がある。国語は、文学的教材や説明的教材で、いろいろなことを、基礎から思考力から学べるようになっていく。だから、大切である。教育出版は、配慮のある児童に関するところの教材であるとか、障害のある方への関わりであるとか、そういった部分に特化している。
- 外国にルーツをもつ児童への配慮についてはどうか。
- 光村図書の裏表紙の部分にある。
- 現場の先生の使いやすさについてどうか。
- 光村図書や東京書籍は鳥取県で使われてきているので、使いやすさはあるのでは。

《協 議》

- ・多様性の部分と、外国人児童への配慮、選択的課題による個別最適な学びという部分で光村図書が良いのでは。
- ・光村図書が良いと思う。丁寧に作られている。多様性や選択的課題に焦点をあてている部分についても良い。
- ・東京書籍であれば、最初に学習の見通しを持つことができるようになっていく。
- ・光村図書の扉の部分について、学び方について触れているページがあったり、既習事項のつながりが示してあったりして、目標を書くページもあり、学び方をマスターさせるという視点で力が入っているのは光村図書だと思う。
- ・関連付けて読む部分についてのページが、今学習しているところの近くにある方がよいのではと思います、それは東京書籍と光村図書である。光村図書は、読んで子どもがどう感じるかという部分についても触れてあって良い。単元をとおして、自分が感じたことをまとめられるようになる。どちらかと言えば、光村図書が良い。
- ・5、6年の教科書が分かれているより(上下)1冊になっている方がなくさないし、困らなくてよい。
- ・東京書籍はQRコードがたくさんあり面白い。
- ・光村図書はカラフルである。これだけでも、子どもはわくわくする。
- ・フォント的には、東京書籍が読みやすいのでは。

《結 果》

光村図書

【保健体育】

《調査報告》

- ・どの教科書も共通して、フォント、性別、年齢、国籍、障害等越えて関わり合う姿が写真やイラスト等で随所に示されている。
- ・どの教科書も共通して、今日的課題について取り上げられている。
- ・教科横断的な内容、道徳的な内容については、どの教科書もバランスが取れている。

1 東京書籍

- ・基礎的・基本的な知識が簡潔にまとめられている。また、「まとめる・生かす」段階で自らまとめられるようになっている。
- ・技能に関する実習ページが設けられており、実習の技能を映像で確認できるデジタルコンテンツが用意されている。
- ・1単位時間の構成が4段階で4ページにまとめて示されている。
- ・ステップ2・3で「ほかの人の意見を聞いて、考えたことやわかったことを書く」活動が設定されており、仲間と対話的に課題を解決していくことができるように配慮されている。
- ・児童の生活場面を想起させる写真やイラストを配置し、児童が身近な例から健康課題に気づき、学習の課題を自分事として捉えることができるよう工夫されている。
- ・章末には学習をふり返ろうのデジタルコンテンツに、章の学習を終えて、もっと知りたい、調べたいと思ったことを書く欄が設けられている。
- ・1単位時間で学習した内容を振り返る欄があり、毎時間の学習内容をまとめることができる。
- ・動画やシミュレーション、思考ツール等デジタルコンテンツが豊富に用意されており、簡単に使用できるように配慮されている。
- ・5年「けがの防止」単元の発展として、自然災害によるけがの防止について書かれている。
- ・教員にとっても、児童にとっても使いやすい。

2 大日本図書

- ・各章の終わりに、知識及び技能を定着させるための問題が設定されている。
- ・1単位時間の課題解決学習を通して、思考力・判断力・表現力等が総合的に育成されるよう配慮されている。
- ・各単元の扉の簡単な運動やチャート等を掲載し、ゲームを行うことで自然と学習課題に気づくように設定されている。
- ・1単位時間の学習内容が見開き1ページで完結している。
- ・「さまざまな性」に関する記述及び「LGBT」の表記がある。
- ・ジェンダーに関する記述がある。
- ・適切な情報機器の使い方について、発達段階に合わせて分かりやすく示されている。
- ・5年「けがの防止」単元の発展として、自然災害によるけがの防止について書かれている。

3 大修館

- ・各章末の「学習をふり返ってみよう」の中で学習した知識が定着しているかどうか確認できるように配慮されている。
- ・言語活動の充実を図るために、友達と話し合い、互いの考えを共有したり、思考を広げたりする対話的な活動を豊富に設定している。
- ・「学習をふり返ってみよう」が設定されている。
- ・ステップ1, 2, 3の3つのステップで構成されている。
- ・健康と安全に留意して情報通信ネットワークの適切な活用ができるようになるための内容を随所に配置し、情報リテラシーの育成に資するように工夫している。
- ・SDG sを取り上げている。

4 文教社

- ・「ここが大事」が適宜設けられている。
- ・「学習のめあて」「本時のMenu」が示されており、見通しをもって学習できるよう工夫されている。
- ・毎時間Mission①②または①～③で構成され、思考しやすいよう工夫されている。
- ・「もっと考えよう課」の項目で、学習したことについてもっと深く考える内容を紹介し、思考が深まるように工夫している。
- ・各時間の終わりに「もう一歩先の自分へ」の欄を設け、学んだことを現在や将来の生活に生かすことができるように配慮されている。
- ・Episodeの項目で学習に関連した具体的な活動や専門家のメッセージ等を紹介している。
- ・単元の終わりに「これからの自分の課題に考えよう」のページがあり、「わたしのけんこうせん言」「わたしの安全せん言」等自分のこれからの目標を設定できるように配慮されている。
- ・「もっと知るところ課」や「つぶやきくん」の項目でもっと知りたい情報のリンク先を二次元コードで示している。
- ・SNSのトラブルについて取り上げ、情報リテラシーの育成に配慮している。
- ・防災教育の観点から、地域の安全を守る取り組みについて取り上げている。5年「けがの防止」の発展的な内容として「災害が起きたら、あなたはどうしますか？」という内容があり、自助、共助、公助という3つのポイントが記載されている。
- ・日ごろからの備えについて防災対策チェックリストで確認できるようになっている。

5 光文書院

- ・「やってみよう」の活動を設定し、実習を通して技能の習得ができるように配慮されている。
- ・話し合う活動を重視し、全単元において児童が思考・判断・表現したことを書くための記入欄を豊富に設けている。
- ・各単元の冒頭「見つけよう」で、自分の生活を振り返った後に学習の課題を確認することで、見通しをもって自分事として考えることができるよう構成されている。
- ・5つの学習過程で構成されている。
- ・情報活用や情報モラルに対応した活動や資料を掲載している。
- ・防犯について、高学年の「けがの防止」の単元だけでなく、中学年の巻頭でも扱っている。

6 学研

- ・1単位時間で学習した内容を振り返る欄があり、児童が自ら振り返りを行うことで、学習の定着を促すとともに、表現する力を身に付けることができるように配慮されている。
- ・話し合う、記述する、表現する等コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動を「ピース②（対話的な活動）」を中心に設けている。
- ・自らの考えや友達の発言を記録できるように書き込むスペースを十分確保している。
- ・「もっと知りたい・調べたい」を設け、学習したことを広げたり、深めたりすることができる資料を豊富に掲載している。
- ・章末の「振り返る・伝える・つなぐ」で身に付けたい資質・能力について自己評価し、学習を振り返ることができるよう配慮されている。
- ・発展的な見方・考え方ができるように、「ほけんのはこ」が毎時間紹介されている。
- ・各項目を「導入（課題をつかむ）」「ピース①自ら取り組む活動」「ピース②対話的な活動」「ピース③活用」で構成している。各単元のはじめのページに学習内容の全体像が示されている。
- ・学びを広げたり深めたりすることに有用なシミュレーションや動画等のデジタル教材を、学習に活用しやすいように掲載している。
- ・3・4年「安全な生活のために②」で、スマートフォンやインターネットを使うときの安全について、5・6年「けがの防止」のうち、犯罪から身を守ることに関連し、インターネットの安全な利用の仕方について取り上げている
- ・5年「けがの防止」の発展的な内容として、地震による災害に対する身の守り方や準備等について記載されている。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

- デジタルコンテンツの使いやすさと豊富さについてどうか。
- 東京書籍か学研がよい。
- 先生方は、日頃使っているか。
- 現状、学研であるが、デジタルコンテンツは使っておられる。
- SNS への依存であったり、情報リテラシーについて、充実具合はどうか。
- 学研が充実している。
- 命のことと、今生きにくい世の中だとすると、心の健康を考えさせる場面についてはどうか。
- 命のことについては、4年生の体の成長と私というところを中心に扱っている。東京書籍にも書かれている。心の健康、悩みの解決といった視点で資料的にも学習できるのは、東京書籍か学研である。大修館も資料的に書いてある。

《協 議》

- ・質疑の中では、東京書籍か学研が多く出てきた。
- ・書き込みやすそうなのは、学研または東京書籍ではないか。
- ・学研の紙が書きやすそうである。
- ・見開きで今日の学習範囲がわかるものがよい。
- ・情報リテラシーについて、課題意識がある。それについて、学研が適切に配置してあり、メリットである。

- ・1単位時間で見通しをもって使いやすいのは、東京書籍ではないか。
- ・写真や絵、イラストが見やすいのは学研である。
- ・絵が多すぎると、読み込みにくいのではという点が、どの教科書についても共通する印象である。
- ・学研か東京書籍が良いのでは。書き込みのしやすさと、スクールカウンセラーについて取り上げているのが、学校への寄り添い感があると、学研から感じる。
- ・学研が一番すっきりしている。子どもにとって使いやすいそうである。

《結 果》

学研教育みらい

【社 会】

《調査報告》

- ・東京書籍は、3、4年生が1冊構成、5年生は上下、6年生は、歴史、政治・国際編の2冊構成になっている。他の教科書は1冊構成である。

1 東京書籍

- ・学習上重要なキーワードを「ことば」として明示し、学習内容の確実な習得に役立てるようにしている。
- ・「まなび方コーナー」を設け、学習技能を系統的に習得できるようにしている。「まなび方」を積極的に提示している。
- ・問題解決的な学習を促すために、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」ということを教科書の左側に大きく提示している。
- ・ドラえもんのイラストを効果的に活用し、タケコプターのイラストや、時間に注目するタイムマシン、関わり方に着目するための話し合うイラストなどを用いて、視覚的な支援を行っている。
- ・「ひろげる」のページを設けている。「まなびのポイント」を例示し、深い学びになるよう促している。
- ・巻頭に前学年で学んだことと、当該学年で学ぶことが並列して掲載されている。カリキュラムマネジメントの視点が伺える。
- ・各学年の巻末では、1年間で学んだ内容を、要点を押さえながら振り返りができるようにしている。6年では、中学校社会科の学習内容を示した「中学校に向けて」が掲載されている。
- ・QRコードを多数配置している。
- ・教科書に掲載している大型イラスト資料の一部を端末上で拡大して見ることができる。

2 教育出版

- ・単元の中に重要な語句が「キーワード」として欄外に示され、知識及び技能を習得するための工夫となっている。
- ・3種類のフォントを使い分けている。資料や文字のバランスが考えられている。
- ・特に3、4年生では、資料が大きく見やすい形になっている。
- ・選んで活用できるページの充実、イラストが大きく見やすい、文字は少なめになっている。

- ・6年生の歴史学習では、白黒写真のカラー化を行っている。
- ・二次元コードから学習場面に応じて、動画やワークシート、クイズなどの活用をすることができる。
- ・領土問題について正しい理解と平和的な解決に向けて考えることができる資料を掲載している。

3 日本文教出版

- ・重要な社会科用語が本文中に太字で示されている。太字で示された用語について欄外に「キーワード」として詳しく解説されている。
- ・「深め合い」活動を設定している。子どもたちが互いに話し合い、聞き合うことで、多面的な思考や理解へと高めていく姿が掲載されている。
- ・空間、時間、関係の視点に沿って、「見方・考え方コーナー」をQRコード付きで表記している。
- ・学年1巻構成。
- ・読みやすいUDデジタル教科書体を使用している。
- ・QRコンテンツから、「アプリケーション」「動画」「ワークシート」「シミュレーション」「外部リンク」等コンテンツが多数ある。
- ・ICT機器を活用している学習の様子や学習例が掲載されている。
- ・「考えよう！SDGsコーナー」が3～6年生で合計32か所ある。
- ・多文化共生社会にも目を向けさせ、子どもたちがグローバル社会に対応できるようにしている。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

- 情報を比較したり関連付けたりする活用の部分が充実しているのはどれか。また、対話的なしなやかさについての充実はどうか。
- 東京書籍と日文については、QRコードから深い学びにつながるようなしなやかさが多数ある。それぞれが問題解決的な学習に導くようになってきている。表示の仕方として、子どもに見やすいのは東京書籍と教育出版である。深い学びの図が書いてあるのは、教育出版である。どの教科書においても、対話的な学びが意識しており、キャラクターにも多様な性を意識したメンバーが入っている。
- 東京書籍は政治国際編と歴史編に分かれている。他の会社は各学年1冊である。子どもたちの使いやすさから考えるとどうか。
- 分野で分かれていると、それで見やすいというところが利点であり、教科書も重くならない。1冊だとなくさなくてよい。どちらも利点はある。
- 東京書籍の分冊について、以前もそうだったか。
- 前は上下である。歴史編、政治国際編という形になった。
- 地域教材とのつなぎやすさはどうか。
- 3、4年生での選択が意識されていたのが、教育出版である。
- 資料と文字のバランスについて、使いやすさはどうか。
- 教育出版は、資料としても使う感じでつくっている。バランスとしては、東京書籍と日文はバランスを考えてつくってある。QRコンテンツも充実している。
- 鳥取県の扱いについてはどうか。
- 鳥取県の内容は副読本で学ぶ。

- 前は一部あったが、今はなくなっているのではないか。
- 今日的な問題が多く取り上げられるようになってきている。
- 世界の中での日本を表現した教科書になってきている。

《協 議》

- ・東京書籍について、中学校に向けたつなぎという意味で、政治国際編であるとか、分冊になっている部分が、分かりやすさ、つなぎやすさがあるのでは。
- ・地域教材とつなぎという意味で、教育出版がよいのでは。
- ・資料の充実とまとめに注目した時に、東京書籍は誘導的であるように感じる。教育出版は、左側に「つかむ」など流れが分かりやすい。
- ・資料について、白黒がカラーにしてあるのが衝撃的で、教育出版のインパクトは強い。
- ・教育出版の文字は教科書体で、大事な部分も教科書体の太字である。東京書籍は、すっきりした文字で、大事な文字はゴシック体で大変見やすい。

《結 果》

東京書籍

【地 図】

《調査報告》

- ・帝国書院は130ページ程度あり、2社には30ページほど違いがある。
- ・どちらもユニバーサルフォントを使用し、文字に縁取りをしている。

1 東京書籍

- ・基礎的・基本的な地図の読み方について説明されている。
- ・地球儀のよさについて、写真を用いて具体的に説明している。
- ・果樹園、田、畑、牧草地の多い地域には、地図記号が記載され、その地域の土地利用について考えを深めることができる。地図記号は小さい。
- ・「ホップステップマップでジャンプ」を随所に設置し、70の問いと作業が設定されており、地図学習を深められるように工夫されている。
- ・3年生からの使用を踏まえ、地図の仕組みと約束ごとをわかりやすく説明している。
- ・二次元コードを設け、白地図や地形がわかるドローン動画、クイズなど多様なコンテンツを設定している。
- ・原子力発電所施設の表記や、北方領土から南西諸島までの日本列島全体の災害地図を掲載している。
- ・プロ野球、Jリーグ、Bリーグ本拠地が掲載され、スポーツの面からも地域の特徴が捉えられるようにしている。

2 帝国書院

- ・地図記号解説部分では、記号の由来がイラストと短い文で示され、記号の意味を理解しやすくしている。
- ・「地図のやくそく」「地図帳の使い方」を地図の基本的な技能が身につくようわかりやすく示している。
- ・「地図マスターへの道」を通して、位置や空間的な広がりに着目できるような問いにより、地図帳を活用できるようにしている。
- ・手話による都道府県名の表し方を紹介している。
- ・デジタル端末に対応した600を超えるQRコンテンツ（クイズ、アニメーションによる解説、動画、VR画像等）と都道府県学習に最適なデジタル地図など工夫している。
- ・北方領土について、防災について取り上げられている。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

- ページ数に違いがあるが、100ページで必要十分なのか、130ページある方がよいのか。
- 特徴からすると、家庭科、音楽など、社会以外でも活用してほしいということが伺える。県の広域の地図と詳しいものがのっていて、3年生の学習では、広域のものでは難しいところもあり、ページ数に違いも出てきている。
- どちらが丈夫にできているか。
- どちらも丈夫につくってあるとあった。帝国書院の方が丈夫かもしれないが、どちらも丈夫につくってある。
- 学習の流れの中で使いやすいのはどちらか。
- ユニバーサルデザイン等で文字が見やすくなったために、文字が入りやすくなってきたのではないかという意見が調査員会で出ていた。そのために、字ばかりが目に入り、特色等が分かりづらいうようになってしまっている部分もあるかと。
- 帝国書院の方が、地図の使い方、記号のことなど分かりやすく書いてあると思うが、授業でどう使っていくのか。東京書籍は、眺めていて楽しいが、授業としてどう使っていくのか。
- 3年生で、地図の見方など基本的なことを学ぶ。地図記号も含めて。高学年では、いろいろな教科でも活用していく。
- 紙も使いながら、タブレットも活用しながらという使い方になるか。
- そのような形になると思う。どちらもQRコンテンツは充実している。

《協 議》

- ・帝国書院の方が見やすいのでは。
- ・中学年から高学年まで使用していく中で、内容的にも帝国書院が良いのでは。

《結 果》

帝国書院

【算 数】

《調査報告》

〈共通点〉

- ・全ての教科書について、既習事項のふり返り、新しい学習にスムーズに入れるようにということが工夫されている。
- ・適応題、発展問題の掲載もある。
- ・全ての教科書が、数学的な見方・考え方について、会社によって掲載の仕方は様々であるが、はっきりと分かる工夫が確実に為されていた。
- ・プログラミングコーナーが、どの教科書にも設けられている。QRコード、2次元コード、デジタルコンテンツがしっかり利用できるようになっている。
- ・防災、安全教育、SDGsに関連した配慮、そのような題材が取り上げられている。

〈相違点〉

- ・学校図書は、キャラクター化の工夫があり、数学的な見方・考え方について、分かりやすく意識付けできる。
- ・日文、東京書籍については、問題解決的な展開と、協働的な学びに向かいやすいような、授業を教師が作りやすくなっている。
- ・教育出版と学校図書以外は、1年生のスタート時の別冊書き込みの教科書がある。
- ・割合は、難しく正答率が低くなる単元である。啓林館では、線分図を出してはいるが、関係図とテープ図を前面に出しながら、割合を教えていく形をとっている。学校図書が線分図と関係図で指導を進めていく形を取っている。他4社については、線分図をしっかりと使って指導をしていると考える。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

○別冊があった方がよいか。

●1年生のスタート時には、大抵プリントを用意する。別冊が書き込み式になっており、児童にとって学びやすいと考える。

○教科書の大きさに違いがあるようであるが、どうか。例えば、教科書もあり、タブレットもありノートもある。

○別冊だけが大きいのでは。

○啓林館を今使っているが、使いやすさという意味で他社とも比較してどうか。

●割合の部分について、調査員会で話が出た。低位の児童が学習をする際、啓林館は、どうしても下の学年から関係図を使って学習させているので、線分図ありきではなく、関係図ありきの指導にどうしてもなってしまう。そうなると、学力調査への対応が難しくなる。線分図がしっかりと書ける、意味が分かりながら立式できる児童を育てていかねばならないが、啓林館では、関係図とテープ図が出てきて、線分図は少し出てくる。調査員会の中では、割合以外の部分はあまり変わらないが、割合の部分については、少し劣ると考えている。

○他はあまり変わらないのか。

●変わらない。線分図をしっかりと取り上げている。学校図書は、4マス形式の関係図と線分図である。啓林館は、テープ図を多く使っている。啓林館に、線分図がないわけではないが、5年生ま

で関係図で学んできているので、関係図でやってしまうという部分がある。

○教科書を変えらるとなると、教材研究は時間がかかるのでは。

●かかる。長い間啓林館を使ってきている。かなり、教材研究に時間がかかることが予想される。

○全国学調について記述があるのは、学校図書であるが敢えて記載があるのか。

●そうである。

○啓林館について、関係図を重視している考え方は分かるか。

●分からない。低位の児童にとっては、形式的に正答できる。

《協 議》

- ・なぜ、「割合」のみに特化するのかは疑問である。
- ・これからの学力の育成に向けて、課題を感じておられるのでは。
- ・線分図と関係図の両方で説明ができる部分が啓林館のメリットである。
- ・配列について、理由があるはずである。
- ・今変えるタイミングではないと考える。もし足りない部分があれば、その課題解決に向かって考えていけば良いのでは。
- ・どの教科書も甲乙付けがたい。継続性を取るべきである。
- ・授業をする先生方の立場からすると、啓林館が一番授業をしやすい。また、鉛筆のイラストが出てくる。そのイラストがしゃべる言葉が、授業の中で児童を揺さぶる部分もあり、とても良い。
- ・啓林館のQRコードには、よくある間違いというのがあり、内容に工夫がある。使いやすそうである。

《結 果》

啓林館

【理 科】

《調査報告》

1 東京書籍

- ・まとめは、問題と正対した表現にしてあるとともに、箇条書きで示されているため、理解しやすい。
- ・各単元のはじめ、巻頭ページなど、理科を学ぶ期待感を高めるアニメーション動画や漫画を配置し、問題解決をしようとする期待感を高めている。児童が教科書を開いた際に、学習意欲が高まる。
- ・弱視児にも見やすいようA4拡大教科書を採用している。
- ・写真やイラストに登場する男女の比率や役割が偏らないよう、また固定的なイメージや服装・色で性の区別をしないように。車椅子を使用している児童や外国人も登場するなど多様性に対応している。
- ・プログラミングの内容が全学年に入っており、実際に体験できるような内容が3年生からできるようになっている。

2 大日本図書

- ・獲得した知識及び技能を「学びをリンク！」で系統的に整理したり、「作ってみよう」で活用したりできるようにしている。
- ・考察場面や発表場面などの多様な表現方法（グラフやパワーポイントなど）を紹介し、課題解決に向けてのヒントをイラストやキャラクターの言葉として明記することで自ら考えることを促している。
- ・写真やイラストに外国にルーツがある人々を登場させたり、固定的なイメージや服装・色で性の区別をしたりしないよう多様性に対応している。
- ・二次元コードがページ下部に配置されており、リンク先の内容が掲載されている。

3 学校図書

- ・QRコードを使って、学習前の「思い出そう」、学習後の「ふりかえろう」は練習問題ソフトが用意されており、知識及び技能を振り返ってから新たな学習に取り組めるよう工夫されている。
- ・記録や発表の方法を複数提示し、学習の記録の仕方を選択できるページがある。
- ・実験器具の使い方等で、一連の作業をスモールステップに分解し、縦の流れで示し、確認しながら作業できるよう工夫されている。
- ・表現がやさしい言葉になっており、「～してはいけない」という表現ではなく「～する時には～しましょう」のような、表現にも配慮が為されている。
- ・日本各地の様々な地域に関わるコラムや写真を紹介することで、郷土に対して興味を持つよう工夫されている。鳥取県の写真、内容もたくさん出ている。

4 教育出版

- ・見方・考え方を働かせた児童の発言例には、カギマークとマーカーを明記してあり、参考にしながら、学習や実験に向かっていきやすい。
- ・協働的な学びという点で、対話的な学びを促す問いかけからスタートしている。
- ・〇年で大切にしたい言葉や伝え合いのモデルを具体的に示し、児童にもイメージしやすい。
- ・全学年「理科室の使い方」で、理科室での感染症対策や地震時の避難行動について説明されている。

5 啓林館

- ・「新しく学習した言葉」で用語の定着をはかっている。
- ・QRコードを読み取ることで、フラッシュカード形式の補充問題（基本のチェック）に取り組むことができるようになっている。
- ・スマート解説のQRコードを読み取って、単元全体の内容を解説の動画を見て確認することができる。
- ・動画は字幕スーパーの有無が選択でき、聴覚障がい児童への適切な対応や配慮がなされている。
- ・特設サイト「わくわくSDGs」で詳しい情報を知ることができる。単元中にも、どの分野と関連しているのかマークの表示がありQRコードで調べることができる。児童が調べ学習で活用することができる。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

○今使っている教科書と、違う教科書になった場合、先生方の負担はどうか。

●教科書毎に、単元配列について若干違いがある。どの教科書でも、不都合なく学習することは可能である。生物の発生に重点を置いた教科書もあり、逆に6年生の水溶液の実験では、あたたかい時期の方が実験の成功率が高い実験もある。そういうものを生物の間に入れていたような教科書もある。そこをどう捉えるか。啓林館では、生物の発生がベースにあった上で、先ほど説明した水溶液についても啓林館のことであるが、生物に配慮しつつ、実験の成功率が高くなるよう配列されているので、児童の実験がうまくいくというのが一番なので、配列がとても分かりやすい。他の教科書でも、工夫すれば成功率は上げられるが、そういう部分で一手間かかるという意味では、負担は多少あるかと思う。

○理科は苦手な先生の割合が高いように思うが、苦手感のある先生の使いやすさという点はどうか。

●理科の学習で難しい点として、準備が考えられるが、児童にとっても先生にとっても良いのは、QRコードのコンテンツが大きな手助けになる。QRコードについて、数で善し悪しではなく、数が多くてもプリントが出てくるものがあったり、数は少ないが、啓林館や東京書籍では、6年生「月と太陽」で学ぶ月の満ち欠けについて、シミュレーションがある。そういった内容については、啓林館や東京書籍のコンテンツは秀逸である。児童の理解も促すことができ、それは先生方の負担軽減にもつながる。

《協 議》

- ・鳥取県の写真がたくさん入っているのは、学校図書ということで魅力は感じた。
- ・生物中心ということで、季節と合っていることが大切だということで、前回も意見が出ていた。季節関係なく、教科書の後ろの方にある単元の順番を変えるということに気付けば良いが、気付かなかったらそのまま進んでしまうというところがある。季節を追った啓林館の教科書は、先生にとっても負担感がなく、児童にとってもよい。
- ・コンテンツの在り方について、プリントよりは動画で学習を補完するような部分が東京書籍と啓林館にあったということで、その点は優位性がある。
- ・プリント的なコンテンツは必要ないのではないか。
- ・QRコードを読み取って、動画が見れたり、実験ができなかった時に、動画を見て視覚的に学ぶ事ができたりする方が興味も沸き、印象にも残る。そういった部分が充実している教科書が良い。
- ・理科は実験道具の準備や手順が難しい。啓林館であれば、そういったものについての蓄積があり、使いやすいのでは。
- ・教育出版は、教えやすそうな気がする。得意な先生も苦手な先生も。

《結 果》

啓林館

【生活】

《調査報告》

1 東京書籍

- ・全体をとおして、見開きで教科書が成り立っている。開けば、そのページで児童が学習をすることができる。
- ・上の教科書 17 ページの右上を見ると、約束というところがあり、様々なページにもあるが、イラストを入れながら、その単元で気をつけないといけないところが載っている。児童自身に考えさせるような言葉になっている。
- ・16 ページの「ともだちと学校をたんけんしよう」では、「何があるのかな」というところで、何に目を向けて、実際にどう向かうのか、導き出すような言葉が載っている。
- ・上の 20, 21 ページ、それぞれの単元の終わりの所には、単元のまとめ方、深め方について具体的な姿が載っている。教員にも分かりやすい。
- ・下の 103 ページから、「かつどうべんりてちょう」というところで、様々な活動の手順が書いてある。
- ・下の 15 ページ、右上のところ、「はなしをつなごう」という所があり、児童を喚起する部分がある。国語の学習とのつながりも分かりやすい。

2 大日本図書

- ・人との関わり方が詳しく載っている。
- ・上の 46、47 ページでは、前の単元から次の単元へのつながりがあり、丁寧である。
- ・ニコちゃんマークを使って気持ちを入れたり、約束という所で注意喚起をしている所がある。
- ・児童が関心をもてるように、関連する部分を SDGs マークで示されている。

3 学校図書

- ・4 人のキャラクターのつぶやきやカードの中で、児童が自然に見方や考え方を生かしていけるよう示されている。
- ・「もっと」のページには、活動を通して自信をもった児童が、さらに意欲をもって取り組める活動などを示している。
- ・下巻『学び方図かん』では、インターネットの使い方を掲載し、利用する場合は大人と一緒に調べるなどの使い方の配慮が例示されている。

4 教育出版

- ・「気づく」というサイコロのようなページがある。他にも「かんがえる」「じしんをもつ」といったページがあり、指導と評価の重点（指導者）を明確にしながら活動を進めることができるよう工夫されている。
- ・「ちょうせんする」というところで、より広がりが出るよう工夫されている。

5 光村図書

- ・ヨシタケシンスケ氏の挿絵を入れて、イラストをとおして児童に働きかけている。
- ・4 コマ漫画により多様な気付きや考え方があることに気付くことができる。

- ・「ひろがるせいかつじてん」でイラストがたくさんあり、児童にとって分かりやすい。

6 啓林館

- ・まとめ方や調べ方が分かりやすく丁寧にまとめてある。他の教科書にも近いものがあるが、啓林館が一番詳しい。
- ・左上の「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」で導入・活動・振り返りの単元の流れが示してあり、繰り返し考えたり表現したりしながら、学びを深められる。
- ・単元のはじめに、疑問形の言葉で、児童が意欲や新しい視点をもつことができるしかけがある。
- ・全体的に、イラストに出てくる言葉が「たいな」「?」「!」がたくさん使われており、意欲と疑問、納得を促している。
- ・「すたあとぶつく〜がっこうだいすきいちねんせい〜」で幼児期からの学びをつなぎ、安心して学校生活が始められるようにしてある。
- ・「ステップブック〜みらいにむかって〜」で系統性を示し、自信をもって3年生に進級できるようにしてある。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

○教科書を変えたら影響はどうか。

- 3年生からの学習にはあまり影響がないと思うが、1・2年生のカリキュラムを変えなくてはならなくなる教科書もある。例えば、校外学習で地域に出かける活動について、ほとんどの学校が1学期に行っているが、それが2学期になるものもある。

○校外学習に影響があるのか。

- とにかく出かけてみようという学習からスタートする場合には、1学期に出かけていくことになると思うが、中には、校内的な学習から発展的に外に目を向けていくような流れでつくってある教科書もある。教師の思いで、その部分を先にやることも可能。教科書を学ぶのではなく教科書で学ぶと考えると、対応はできるように思う。

《協 議》

- ・東京書籍が、教師が学習のポイントであるとか、若い教師も使いやすいのでは。
- ・光村図書のヨシタケシンスケのイラストと児童の写真は魅力的である。
- ・先生方の負担感をどう考えるか。
- ・校外行事は、教科書が変わると作りなおす必要があるのか。
- ・作り直す必要はある。
- ・何を勉強するのだろうとを感じる教科書もある。
- ・生活科は体験が大切。その視点でいくと、どの教科書も体験重視である。
- ・東京書籍は、教師にとって分かりやすい。継続で良いのでは。

《結 果》

東京書籍

【音楽】

《調査報告》

- ・ 1年生と6年生の教科書を中心に比較等報告。
〈共通部分等〉
- ・ 学習マップというものがあり、教育芸術社は活動をもとにしたマップになっており、1年生も「うたう」「きく」「つくる」「えんそうする」という言葉がキーワードとして使っている。教育出版は、目次にもとづいた単元の名前でつくられている。それぞれの良さがあると思うが、例えば、教育芸術社は教科書に出てくる印について同時に説明があり、各学年共通している。学び方について書いてある。教育出版は、6年生になると、学習の進め方という言葉で説明してある。それぞれの教科書会社が、ねらいに合わせた構成になっている。
- ・ 学習のふり返りについて、どちらも内容的に大きな違いはないが、6年生は、教育出版の方は、音楽を専門にしていない者にとっては、分かりにくい印象がある。教育芸術社の方は、学習マップとのリンクも分かりやすい。
- ・ 学習の進め方という部分で、教育芸術社は学び方がマークで共通して示してある。教育出版は、ナビマークとして方位磁針が出てくるページがある。
- ・ どちらの教科書にも常時活動があり、基礎基本の定着を図るため、リズムや鍵盤ハーモニカ、リコーダーの演奏など、音楽の活動では重視しているが、どちらの教科書も、様々な表現活動が繰り返しできるように、戻ってくる場所も分かりやすいように示してある。
- ・ 基礎基本になる言葉が大切で、どちらも大切に扱っている。
- ・ どちらの教科書も国際理解教育の充実という観点から、外国語の歌詞の教材や「英語の歌」が取り入れられている。
- ・ どちらの教科書も、今の音楽情報が反映されている。

1 教育出版

- ・ 巻末にショートタイムラーニングというものがあり、他教科と関連する活動ができるようになっている。
- ・ 教科書の紙面にある二次元コードを読み取ることで、「まなびリンク」にアクセスすることができ、個別最適な学びを動画で見ることができる。
- ・ 写真が工夫されている。折込を使ったワイドな紙面で、音楽の世界のイメージを広げることができる写真やイラストがふんだんに使われている。

2 教育芸術社

- ・ 生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す学習活動やコラムが設定されている。
- ・ 地域に伝わる音楽の学習や、社会科や総合的な学習の時間につながるような内容がある。
- ・ 教育芸術社の方が表紙のイラストなど、多様性への表現が色濃く出ている。
- ・ 教科書の紙面右上の二次元コードを読み取ることで、学習をサポートする「ムーブの部屋」にアクセスできるようになっており、音源を聞いたり、音楽づくりの教材や楽器の紹介動画を見たりすることができるようになっている。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

○ふるさと教育や教科横断的な観点からみると、教育芸術社の方が優れているという認識か。

●人によると思うが、それぞれの学年に応じながら工夫されていると感じた。それぞれの良さはあると思うが、つながりはもちやすいと感じる。

○選曲の傾向はどうか。

●同じようなものもあるし、これまで教育芸術社を活用していたため、教育芸術社の方は慣れ親しんでいるものは多い。曲数は教育芸術社の方が多い。教育出版は、今まで使っていないという曲があり、各学年共通のものもある。

《協 議》

- ・教育芸術社が良いのでは。
- ・ふるさと教育や教科横断的な観点からみて教育芸術社が良い。
- ・教育芸術社で異議はないか。

《結 果》

教育芸術社

【図画工作】

《調査報告》

1 開隆堂

- ・各題材に必要な作り方をイラストや写真で紹介し、巻末に「学びの資料」を設け、用具・材料の特徴や使い方を示している。
- ・巻末の「ひらめきショートチャレンジ」では、最後のページに「これまでのふりかえりをしよう」を設定し、どのような資質・能力が身についたのかを確認できるようにしている。
- ・ユニバーサルデザインフォントの使用、漢字のふりがな、意味のまとまりごとの改行など児童が読みやすくとらえやすい表記となっている。
- ・図画工作の学びを生かし、社会につなげる観点から、「SDGs コラム」や「つながる造形」「みんなのギャラリー」などの囲み記事やページを設定している。

2 日本文教出版

- ・同じ用具を繰り返し使うことで用具の扱いに慣れるとともに、確実に技能を積み上げていけるよう題材配列を工夫している。
- ・題材ページには、表現や鑑賞の活動を通して友だちと話したり協力したりする様子が多く掲載されており、友だちとの関わりが自然と生まれ、協働的な学びが実現できるよう配慮している。
- ・写真やイラストにおいて、外国籍の児童など多様な児童がともに学び合う姿や、幼児、高齢者、障がいのある人など多様な人々に関わる姿を掲載している。
- ・「資源・環境」の観点から、プラスチック製の材料を使用する題材を令和2年度版と比べて70%削減している。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

○県立美術館の事業でも、対話的な学びというものがあるが、例えば日文はどのあたりがそれにあたるか。

- 全体的なところではあるが、日文は、多様というところで、これまでの教科書から一歩深めて、高齢者、障害のある方々も含めた造形活動であるとか、写真も多く掲載されている。児童が、この教科書を見るというところで、多様な人との関わりというところが、より深められているという印象をもっている。
- どちらかの教科書で、集めにくい材料、道具が揃いにくい等の影響はどうか。
- 材料については、身近なもの、そして、日本全国の状況、実態、季節等にも配慮しながら、単元の配列も学校側がより取り組みやすいような形で配列、選択できるようになっている。
- 鑑賞のための作品の数についてどうか。
- 数の違いは見受けられない。教科書で不十分な点は、2次元コードで児童が検索していくという部分は、2社とも共通している。
- 1・2年で上下となっているが、使い方としてどうか。
- 1・2年生でひとつの学びという使い方である。
- 間違いやすい等の危惧はないか。
- この表記に慣れており、特に違和感はない。
- 1年生で1・2年生の上を使うのか。上下を使うのか。
- 上を1年生で使うという使い方が多い。学校、地方の実態に応じて、上下を使う場面もある。
- 上下の方が都合が良いということか。学校のカリキュラムが変更になっても使いやすさがある。
- おっしゃるとおりである。
- 中部地区は版画に力を入れていると思うが、版画の状況はどうか。
- 特に中部地区は、昔から版画の学習に力を入れて取り組んできた。今も力を入れているが、新しい図画工作の造形的な見方・考え方を意識して、以前のような指導ではなくなってきた。児童の造形活動を重視した、学習指導、作品の流れになってきている。

《協 議》

- ・系統的にも内容的にも日文が良いのでは。
- ・表現や鑑賞の活動を通して友だちと話したり協力したりする様子が多く掲載されており、友だちとの関わりが自然と生まれ、協働的な学びが実現できるよう配慮している。日文が良い。

《結 果》

日本文教出版

【書 写】

《調査報告》

- ・特に、硬筆の入門期である1年生、毛筆の入門期である3年生について、紹介させていただく。

1 東京書籍

- ・1年「かきやすいもちかた」において、左利きと右利きの両方が実物大で掲載されており、動画も利用できる。
- ・書き始めをととても意識されている。4つの部屋と関連付けて、どの部屋から書き始めるかということで、色づけをして意識付けを図っている。
- ・導入で、どの字が整っているか探す思考からスタートしている。
- ・前の学年で習ったことが書いてある。

2 教育出版

- ・「消しゴムの使い方」を扱っている。
- ・「めあて」と「ふり返り」が分かりやすく示されている。
- ・「とめる」「はらう」というところに赤丸がついている。
- ・目次が分かりやすい。絵や写真もあり分かりやすい。
- ・穂先の向きが時計の向きとして位置づけられている。
- ・試し書き、まとめ書きで、学習のはじまりと終わりが上手になった実感がわくよう工夫されている。
- ・「どの向きが良いのかな」とクイズ形式になっていて、試筆、終筆等、どちらが良いか自分で考えることができる。

3 光村図書

- ・硬筆のスタートになる1年生に「スタートブック」がついていて、丁寧に書いてある。字を書く姿勢、鉛筆の持ち方など、入門期に対応している。
- ・言葉遊びのように唱えながら学ぶような工夫がある。
- ・「とめ」「はらい」の所に、点があり、視覚的にも意識付けしてある。
- ・書写のスタートブックがあり、用具の準備のページ等、情報量が少なく、児童は準備だけのページとして見ることができる。姿勢、持ち方など、1ページずつになっていて、丁寧である。
- ・ねらい、学習の進め方が、教科書の右側に配列されている。児童もゴールが分かりやすい。
- ・穂先の向きが児童に分かりやすい絵で示されている。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

○光村図書は、点、画の前に筆の特徴をつかむページがあるが、他社はどうか。

●教育出版、東京書籍にもある。

○横画の太さ、筆圧も他社にあるか。

●東京書籍、教育出版にもある。

○教科書が変わると不都合があるか。

●変わっても特に大丈夫である。

○各ページにQRコードがついているのは、東京書籍だけか。

●どの社にもついているが、授業の導入に使う動画がついているのは、東京書籍だけである。筆の動

きは全てついている。

○使いやすさはどうか。

●調査員の気持ちとしては、児童が自分で学びながら進み、教師にとっても進めやすいのは光村図書である。すっきりしており、いろいろなところに目が向くこともない。

○1年生の鉛筆で文字を書く導入部分で使いやすいのは。

●スタートブックがある光村図書である。

○ページ数はどうか。

●スタートブックの分多くなっている。1年生、3年生の出だしに10ページ程度使われている。丁寧さが伺える。

○書道を習っていない児童は、筆圧が難しいと思うが、教科書の中でそういう筆を使うコツ、強弱が分かりやすいのはどうか。

●筆圧については、学習指導要領に記載があり、どの教科書も工夫して記載されている。言葉も添えながら、おさえられており、差異があまりない。

《協 議》

- ・光村図書が良いと思う。1年生の平仮名は一生ものであり、鉛筆の持ち方など丁寧に指導できる。
- ・同じく光村図書が良い。スタートブックの中で、リズムで教えるというのも良い。
- ・スタートが丁寧な指導となるものが良い。

《結 果》

光村図書

【家 庭】

《調査報告》

- ・学習指導要領によると、主体的に課題を見つけて、課題を解決していくことを求められており、家庭科においても、学習したことを、いかに家庭生活に生かしていくかという営みになる。教科書にも、そういった流れが必要となると考えている。
- ・内容の扱い、学習方法について、2社に大きな違いはなかった。見せ方には特徴があるが、大体のことはもれなく書いてある。
- ・両社とも、技能の定着という点で、単元の最後に「できたかな」というようなポイントを示すものが書いてある。
- ・両社ともに、家庭科の見方、考え方を意識して学習できるようになっている。
- ・両社ともに「調べよう」「考えよう」「話し合おう」といった問題解決的な流れになっている。
- ・両社ともに、学習が終わった後に、深め、家庭生活に生かすための働きかけが掲載してある。
- ・両社ともに、小単元に学習のめあてが書いてある。
- ・単元のテーマを投げかける時、例えば調理の学習で、東京書籍のステップ1では、調理の目的と手順を考えようという投げかけと、開隆堂は「なぜ調理をするのだろうか」という投げかけになっている。まずテーマを投げかけたときに、「なぜ調理をするのだろうか」と投げかけても、児童の反応は薄い。目的と手順を考えようという方が、児童には分かりやすい。
- ・配慮を要する児童に対する部分として、両社ともに大きな違いはなく、UDフォントが使っており、

右利きや左利き両方に対応している。

- ・デジタル化、今日的な課題への対応について、両社ともにさほど差はなく、QRコードがついていて、児童が読み取って、動画を利用しながら、学ぶことができる。

1 東京書籍

- ・実習の流れは帯のように示していないが、流れは分かりやすくまとめている。
- ・小単元のテーマがあり、活動1、活動2、活動3というふうに、次に、この時間にどんな活動をするのか順序立てて書いてある。
- ・小單元ごとに、テーマと学習のめあてが書いてある。
- ・5年8単元、6年7単元で衣食住が総合的に扱われている。
- ・消費生活との関連で「SDGs」についての記載がある。
- ・手にとった時に、学ぶ内容が分かりやすい。

2 開隆堂

- ・技能的な内容には写真が多く採用されている。実習の流れも帯のように示してある。
- ・単元を大きく3つのステップでつくっている。
- ・5年11単元、6年9単元で内容を絞り、多くの単元で構成されている。
- ・5年生の終わりに1年間の学習をふり返ってSDGsについて考える小単元を設定し、6年生の学習につないでいく工夫がある。
- ・資料集的であり、専門性のあるものが使うのに適しており、資料が多いのは児童にも良い。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

- 今変えると、6年生は開隆堂となり、5年生は別のものとなるが、問題はないか。
- 単元の数に違いがあり、懸念はある。
- 変わっても困らないのか。
- 変わっても困らないが、今の5年生が6年生になった時に、学習する必要があるものもある。
- 単元数に違いがあり、今のカリキュラムの中で余裕のある時間ができ、それを何かの時間にあてることも考えられると思うが。家庭科の深める授業を自分で組み立ててするという事も可能かと。
- 単元の数が変わっても、総時数は同じだと思うが。
- 総時数は同じで、1つの単元の時間数が変わる。
- 時間数を勝手に増やしたり減らしたりはできないはずである。
- 1年間の時間数は変わらない。
- 教科書会社を変えらるゝとして、東京書籍の方が、単元的に教える内容をまとめている。そのあたりで、学びに影響は出ないのか。2つの教科書を取り扱うことになるとおもうが、負担はどうか。
- 負担はあると思う。単元の並びも違う。ただ、多少の負担はあるが、学ぶ内容が大きく違うわけではない。
- 単元が細かく分かれている方が使いやすいか。
- そういう部分はあると思う。

《協 議》

- ・豆知識が書いてあり、開隆堂が良い。
- ・継続性を重視して開隆堂が良いのでは。
- ・今までの積み上げを生かすということで、開隆堂が良い。
- ・手順が帯できれいに分かりやすく示してあり、開隆堂が良いのでは。

《結 果》

開隆堂

【英 語】

《調査報告》

1 東京書籍

- ・別冊絵辞書がついている。
- ・Unit のはじめに単元ゴールを映像で確認でき、児童が見通し、具体的なイメージをもちやすい。
- ・帯活動の例が多数記載してあり、文字指導や既習事項も反復的に学習できるよう構成されている。
- ・適切な言語材料を活用して、情報や話したいことを整理して、自分の考えを形成する活動が丁寧にスモールステップで設定されている。
- ・全体の構成としては、学習内容の慣れ親しみから、知識技能の習得、思考・判断・表現力を働かせる活動へと段階が踏まれている。
- ・ユニバーサルデザインフォントが採用されており、なぞり書き用のフォントが採用されている。
- ・アルファベットの書き順に関して、本来はないが、それは児童にとってはあやふやで、学習しづらい部分がある。教科書の特別なフォントを見て、矢印に沿っていくだけで、書き順が自然と身につく。
- ・単語は教科書の紙面に約 700 語。デジタル教科書内に 300 語ある。

2 開隆堂

- ・別冊絵辞書がついている。
- ・繰り返し聞き、慣れ親しんだ知識・技能を使って、単元内の活動、Lets' try 1 等の学習では、実際に英語で考え、言葉で気持ちを伝え合う活動が設定されている。
- ・教科書の下の方には、スモールトークの例が記載されており、反復学習ができるように工夫されている。
- ・学期末には、Let's check というページがあり、年 3 回のペーパーテストとパフォーマンステストで児童自身が自分の成長と課題を確かめることができる構成になっている。
- ・全ての単元が 8 時間で構成されている。
- ・単元の見開きに学習のゴールを示してあり、見通しをもって学習に取り組めるよう、4 段階の学習チャートが示されている。
- ・動画でアルファベットの書き順を確かめるものがある。
- ・総単語数は 757 語。

3 三省堂

- ・別冊絵辞書がついている。
- ・単元は HOP, STEP, JUMP の 3 段階で構成されている。
- ・別冊絵辞書には、CAN-DO リストが掲載されており、評価規準等が設定されている。
- ・各学年、各単元の冒頭では、既習事項を確認する場面が設けられている。
- ・総単語数は 668 語。

4 教育出版

- ・各単元の導入とゴールを、確認することができるようになっている。
- ・単元の見通しをもって学習できるよう工夫されている。
- ・Let's Say It Together や歌では、ターゲット表現を繰り返し練習できるようにされている。
- ・「Final Activity」では、慣れ親しんだ表現をもとに、コミュニケーションの目的を意識して活動できるように工夫されている。
- ・巻末に成果物を児童が作りあげることができるようなワークシートが収録されている。
- ・教科書上の絵辞書には 187 語記載がある。
- ・各学年でおよそ 200 弱の単語数。

5 光村図書

- ・各単元が 4 段階で構成されており、段階を追って新しい知識・技能を習得できるようになっている。
- ・慣れ親しんだ表現を使って、Let's try という学習活動では、お互いの考えや気持ちを伝え合う活動が各段階に用意されている。
- ・プラスワンという活動で、より詳しく学ぶこともできる。
- ・「まとめ」の言語活動が各学年に 3 か所設定され、学んできた表現を発信できるように構成されている。
- ・「できるようになること」見開きページでは、各単元 5 領域の中で、特に重点的に指導するものが設定されている。
- ・総単語数は 712 語。

6 啓林館

- ・総単語数はおよそ 800 語。
- ・Chant というリズムを使って繰り返し言葉を習得していくという学習活動のために、その単元でおさえたい内容が明示されており、表現の定着が、目でも音でも図られるように配慮されている。
- ・各単元に設定されているアクティビティでは、これまでの学習をいかして、自分の言いたいことを選んで話すことができるように工夫されている。
- ・1 つの単元をステップ 1、2、3 としており、各ステップが見開き 2 時間の配当になっている。
- ・進度に応じて、追加の学習ができるように工夫されている。
- ・個別学習に利用可能な単語クイズが収録されている。自分で操作し、作文し、読み上げる音声機能もある。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

- 授業の導入で楽しいなと思える部分が多いものはどこか。習い事をしている児童とそうでない児童と差があると思うが、そのあたりで、個別最適な視点でも、学び直しが充実しているところはどこか。
- 導入の部分では、特に差は感じない。東京書籍は、自分がどのような姿になっていけばよいのかということがとても詳しく、児童の実際の姿で、アニメではなくて、本当の児童の姿を使って確認することができるので、とても丁寧だと感じた。デジタル教科書の充実度も高いと感じる。書くことや音声の面について、個別学習という意味では、東京書籍か、啓林館かと思う。
- 教科書が変わることで、先生方の負担はどうか。
- 変わるとなるとしんどい面はある。
- 全ての学校に英語専科の方がおられるわけではなく、日々の授業の教材研究というところで、負担は増えるのかなと思う。
- 準備は大変になる。
- 中学校への接続についての特徴はどうか。
- どの教科書も、6年生の3学期の内容について、将来のことや中学校での自分をスピーチする内容になっている。
- 教科書によって、書くことに力を入れているような傾向はあるか。
- 丁寧に差はあると思う。4線の上になぞり書くようなものや、書き順から丁寧にとというものなどある。
- 教科書によって扱う単語の数が違うということで、小学校で使う単語として難しかったり、児童の身近な生活に寄り添った単語で構成されていたり、そういった部分はどうか。
- 700語前後が主に教科書内に収録されており、大きな違いはない。児童は、どうしても正しいものを使いたいと感じる。それが、英語だけで収録されていて、日本語としての意味は、載っていない教科書もある。日本語と英語がくっついた状態で辞書にのっているものもある。
- 国語の教科書のように、漢字の読みが書いていないというようなことか。
- 辞書が別冊でついているものと、巻末にあるものについて、そのあたりはどうか。
- 別冊でついているものは、それを2年間で学習するという形で、児童はそれを見ながら学習していると思う。私たちは、アルファベット順に並んでいるとか、あいうえお順に並んでいるという感覚だと思うが、基本的には、その単元でその該当ページを見るような形になっている。児童は、見て写して書くという活動がたくさんあり、別冊の方が親切だと感じる。なぜかという、どうしても、それを置いて、写して書くので、巻末にあると何度もめくらないといけない。
- どちらかという、小学校の英語は、自分の気持ちを表現したり、友だちとコミュニケーションを取ったりして、英語に親しみ、中学校で苦手意識をもたないでほしいと思っている。児童にとって、表現したり、英語でコミュニケーションをとりやすい教科書はどうか。
- 啓林館の積み上げがあり、使いやすさがある。児童が自分で話す際に、積み上げや、自分の情報を整理するという活動が自分の中で組み上がっていないと、話してみようとなってもいきなりは難しい。その流れが丁寧に示されているのは、東京書籍だと思う。
- 小学校のCAN-DOリストについて、児童に分かりやすく示されているのはどこか。
- どの教科書にもある。
- 大きな違いはないか。

- ないと感じている。
- 書くことは、大切な技能だと感じるが、小学校では、どれぐらいトレーニングできるのか。また、4本線の間隔について、そのあたりとの関連で書くことについてどうか。
- 4本線の幅が広いものがあったり、およその等間隔であったり、教科書によって違う。啓林館は5:6:5の幅の広さになっている。他の教科書は、広いものもある。できれば、等間隔の方が使いやすいと感じる。

5年生では、書くことはほぼない。なぞったり、アルファベットを学び直す程度である。6年生になって、文章を英語のルールに沿って書くということが始まっていく。それを毎時間することはなく、2, 3時間に1回程度書く、そして、まとめの学習で3から4文書くというような積み上がりを単元毎にしていくということになる。小学校では、そこまで書くことに力を入れるのではなく、話す・聞くことの比重の方が大きくなっている。ルールを勉強しないわけではない。
- 文部科学省がスタートした時に「親しむ」からスタートしている。書くことの比重が少ないことは理解している。それが、うまく接続につながる教科書であるとよい。
- 英語で物事を考えるために、英語の単語でイメージがわいて、それが抽象的な概念もイメージがわくようになったら会話ができるのだと思うが、それにふさわしい教科書は。それが究極の目標だと思う。
- 児童は、単語や意味を一つずつ覚えているというよりも、どんな活動をどんなフレーズを使って勉強したというような、その場面全体で覚えていると思う。それを、中学校では、意味と言葉と綴りと文法でという流れになっている。
- そういう意味で使いやすいのはどうか。先生方全員が英語専科ではない中で、今教科書を変える影響と、今までの積み上げを考えると、その比較だと思う。もう少し蓄積は必要か。
- 必要である。

《協 議》

- ・指導力の向上のさらなる向上のために、啓林館の継続で良い。
- ・積み上げた方が、先生にも児童にも良い。啓林館が良い。
- ・東京書籍の、単元のゴールイメージを映像で確認できるのは良い。

《結 果》

啓林館

【道 徳】

《調査報告》

- ・各社特徴的な部分について報告。

1 東京書籍

- ・「自分のこと」「人とのかかわり」「社会とのかかわり」「命、自然、大いなるもの」というカテゴリーで分類してあり、さらに、カテゴリーが重点内容としてあり、全学年に記されている。これは、今日的課題に関わる内容でもある。

2 教育出版

- ・「かいけつ」や「たいけん」の教材があり、様々な学習方法ができるようになっており、児童の自主的な学習を促す工夫となっている。

3 光村図書

- ・中学年から、「ともに生きる」というUDや国際理解などに焦点化したページがある。

4 日本文教出版

- ・自分の思ったことや考えたことを記録する「道徳ノート」が全学年あり、学習を振り返り、深めることができる。全ての題材について、記録するページがある。

5 光文書院

- ・全学年にSDGsを扱うページがあり、そこで関連する教材を示したり、自分ができることは何かを問いかけたりしている。

6 学研教育みらい

- ・様々な問いかけ、吹き出しがあり、児童に考えさせるしかけが随所に見られる。
- ・学びを深めるデジタルコンテンツがあり、写真や動画、資料を見ることができる。

《質疑応答》

○委員 ●調査委員

○校内で実践資料や、昨年度の資料等の共有はあるものか。

●全ての題材とまではいかないかと思うが、各学年の重点内容等、略案、ワークシート等、各学校で保存しておられると思う。

○日本文教出版の道徳ノートについて、他の社にはないが、どうか。

●他の会社も記録するページはあるが、小さなものや、簡略化したものが多い中で、全ての題材に記録が残るということで、日本文教出版に特化したものであり、特徴的なものであると思う。

○前回、道徳ノートでの積み上げができるという利点が出ていた。それが現状生かされているかという点ではどうか。

●不都合という声は聞かない。道徳の授業を見る際に、学習の1単位時間の中で、こういったページがあるということは、後の評価に、記述として残していくものが、全ての題材にあるというのは、非常に指導者としても効果的なものであると思う。

○効果的だということは、指導の積み上がりにもつながるということ。

《協 議》

- ・ 道徳ノートの優位性が前回の採択の理由にもなっている。それが現在も生きているか。
- ・ 記録(道徳ノート)が残り、それが評価の対象になるというのは、大きな資料になる。子ども自身がそれを見て、学びを遡って感じられるという意味で良い。
- ・ 授業者の立場からして、道徳ノートがあるのは良く、足跡も残る。集めやすさもある。
- ・ いじめ、情報について大切にしているということが書いてある教科書がある。日本文教出版も、いじめや情報についての内容は取り上げてある。継続で良いと思う。
- ・ 同じ題材の学習で、蓄積されてきているものがあると思う。それをもう少し磨くという点で、継続が良いと思う。

《結 果》

日本文教出版

【特別支援学級の教科書について】

《調査報告》

1 文部科学省著作の☆本（こくご、さんすう、おんがく、せいかつ）

- ・ 知的障がい特別支援学校の教育課程に準じた内容で学ぶ児童生徒にとって、学びやすい内容・構成となっている。
- ・ 「さんすう」など、児童が興味をもつしかけがある。
- ・ 材質に工夫があり、五感を使って学ぶことができるよう工夫されている。

2 一般図書

- ・ 人の感情に関する本、音楽に関する本、工作に関する本などがある。
- ・ 調べ学習などでも活用が可能である。

《結 果》

承認

(司会) 結果の確認

5 今後の予定

本協議会の選定結果をもとに、各市町教育員会にて検討していただき、その結果の報告を事務局までお願いしたい。各地教委からの報告が集まりしだい、事務局からその結果を連絡させていただく。各地教委は、その結果連絡を受け、8月31日までに県へ採択の報告をすることになる。

6 閉会（事務局）

長時間にわたり、慎重なご協議をいただき、感謝申し上げます。